

錦織 圭の快進撃！

テニスに興味がなくっても、毎日々々テレビや新聞でその動向が注目されているから、いやでも耳に残る。しかも、勝ち続けるから余計に露出度が上がり、そのさわやかな見た目や人柄とも相俟って、人気上昇する。

3～4年前には、プロテニスプレイヤーが何人いるか知らないが、ランキングも400位あたりで、並以下の選手に過ぎなかった。ところが、するするとランキングが急上昇し始め、それまでは、でた！エアー圭！程度の着目度に過ぎなかった。エアーケイとは、ジャンプしながらストロークを放つことで、松岡修造さんなど、本人に向かって「意味無いじゃん」などと言っていた。・・・たしかに意味はない。

何かに目覚めたのだろう、急速にランキングが上昇し、2014年には一桁（9位以上）になった。現在はランキング5位である。テニスの四大大会の全米オープンではあわや優勝するか、まで進んだ。このことだけでも快挙である。そしてATPワールドツアー・ファイナルズまで出場した。ランキングの上位8人による文字通りファイナルツアーである。ここでも準決勝までこぎつけ、あわやのところまで進んだ。そもそもATPワールド・・・については、日本人選手が出場したこともなければ、その存在も、スポーツライターならともかく、一般のスポーツ記者は知らなかったと思うのだが、あたかも以前より通曉していたかのように書きよる。

テニスの選手には変なのが多い。コートで「よし！挽回！」などはともかく、意味不明の言葉を大声で発する。一瞬ギョッとする。左右の腕の長さが異なるし、5～20cmくらいの差はある。・・・昔、源為朝は強弓を引くため、明らかな左右差があったという。

変なの筆頭は、松岡修造さんだろう。人格を云々するわけではないが、あの悩みがまったくなさそうで、常にハイテンションの状態には、1日中付き合うのはちょっと・・・と言う人が多い。ところが、本番前には、逆に大人しく静かだという。その落差にも驚く。・・・松岡も強かったが、それでもランキングは80位くらいだった。しかし、その解説の旨さには定評がある。その男が錦織のプレーには舌を巻くことしかできないことがよくある。それほど、錦織の境地が高くなっているのである。他の日本人選手は、足元にも及ばないだろう。

錦織はそれほど体格的に優れているわけでもなく、技術と精神力で世界に伍しているのを見るたびに、清水善造さんを思い出す。時々、清水圭と言ってしまって、あああれは芸

人だったか、などとひとりごつ。

清水善造さんは、上前淳一郎さんの「やわらかなボール」で有名な人で、1919年のウィンブルドン大会で、米国のチルデンが足を滑らせて体勢を崩した時、山なりの「やわらかな」ショットを打ち返し、チルデンがラケットで清水のフェアプレーを称えたとき、観客がスタンディングオベーションで誉めそやしたという伝説がある。チルデンのサーブは時速 240km 以上だったというが、スピードガンで測定したものではないから、どうだろう。また、米国での試合で、チルデンにあと 1 ポイントで勝利するところを人種差別でネットの審判のために誤審されたという話もある。いずれも、そんなことはなく、やわらかなボールしか返せなかっただけのことである。わざとの誤審も捏造らしい。ただ、清水は Smily Shimizu (にこやかな清水) で人気があったというのは確からしいが、プレー中は、鬼気迫る形相だったという。1921 年 (大正時代だぜ) には、世界ランキング 4 位になっている。

錦織 圭は、現在「勝てそうも無い選手がいない」というから、まだ上を狙える可能性を秘めている。そういう面から見ても、最近「エアーケイ」がみられないでしょ。やっぱり意味が無かったのである。ストローク戦で上回り、ドロップショットを駆使し、レベルが上がっているのは間違いないようだ。態度や表情に自信が溢れている。

2014.12.30.